

## 特別展

# GIGA・MANGA

江戸戯画から近代漫画へ

2021年 4月24日(土) ▶ 7月4日(日)

前期 4/24-5/30 後期 6/1-7/4

いまや世界共通言語となった日本の漫画＝MANGAの歴史を、京都国際マンガミュージアム所蔵品を中心とする約320点の作品と資料で辿ります。江戸中期の戯画「鳥羽絵」本、明治・大正期の諷刺漫画雑誌、昭和戦中期の子供漫画が揃います。



作者不詳《当時流行諸噺商人尽》1868年頃  
京都精華大学国際マンガ研究センター／京都国際マンガミュージアム蔵

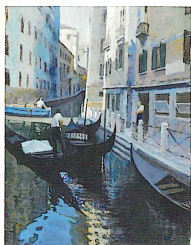
## 企画展

# 世界周遊

～神戸ゆかりの画家たちが見た外国風景～

7月17日(土) ▶ 9月12日(日)

2020年のコロナ禍により、世界中で人々の移動の自由が制限されています。私たちが再び、さまざまな国への旅ができるようになるまで、絵の中で海外旅行気分を味わいませんか？林重義、小松益喜、関口俊吾、中西勝、菅原洗人、長尾などが描いた外国風景と、アカデミー・バー壁画を展示します。



青木一夫《ベニス》1970年代 当館蔵

## 特別展

# ミロコマチコ

いきものはわたしがみ

10月2日(土) ▶ 12月19日(日)

いきものの姿を伸びやかに描くミロコマチコは、大阪出身の画家・絵本作家。彼女の絵本は国内外で受賞多数、またさまざまなアーティストとのライブペインティングでも注目されています。歴代のライブペインティング作品、絵本原画、インスタレーション、最新作など約200点を展示します。



ミロコマチコ《あっちの耳、こっちの目（カモシカのおはなし）》  
2016年（山形ビエンナーレ 2016）  
©mirocomachiko ©Kanabou

## 特別展

# 海を渡った版画家たち

～平塚運一と神原 浩～

2022年 1月15日(土) ▶ 3月27日(日)

1 うんいち  
平塚運一(1895～1997)は島根県松江市に生まれ、石井柏亭との出会いを機に木版畫の道に進みました。1935年に東京美術学校(現・東京藝術大学)で版畫教室が開講されると木版畫を教え、創作版畫の普及に尽力。戦後、アメリカへ渡り、同地で33年間、制作と普及活動を行いました。人生100年時代の先駆者とも言える平塚の代表作を紹介します。



神原 浩  
《オールセントチャーチ 神戸》  
昭和戦前期 当館蔵

3  
神原 浩(1892～1970)は神戸市に生まれ、関西学院を経てキューバ、フランスに学んだ油彩画・銅版画家です。近年に寄贈された作品を中心に、初公開資料を紹介します。

■ 企画展入館料 一般 200円(150円)、大学生・65歳以上 100円(50円)

- ・( )内は30名以上の団体割引料金
- ・高校生以下・神戸市居住の65歳以上の方、無料
- ・小磯記念美術館、神戸ファッション美術館の入館券(半券)をお持ちの方、割引
- ・特別展は別料金となります

ご利用案内  
開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)、  
5月6日(土)、8月10日(火)、2022年3月22日(火)、年末年始

展示替などの  
臨時休館日 4月1日～4月23日、7月5日～7月16日、9月13日～10月1日、  
12月20日～1月14日、3月28日～3月31日